

製品名: DD2 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab09857

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	37kDa

抗原情報

遺伝子名	AKR1C2
別名	AKR1C2; DDH2; Aldo-keto reductase family 1 member C2; 3-alpha-HSD3; Chlordecone reductase homolog HAKRD; Dihydrodiol dehydrogenase 2; DD-2; DD2; Dihydrodiol dehydrogenase/bile acid-binding protein; DD/BABP; Trans-1; 2-dihydrobenzene-1,2-diol
遺伝子 ID	1646.0
SwissProt ID	P52895
免疫原	抗血清はヒト AKR1C2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

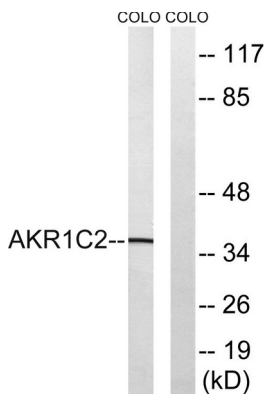
背景

この遺伝子は、40種類以上の既知の酵素およびタンパク質からなるアルド/ケト還元酵素スーパーファミリーのメンバーをコードします。これらの酵素は、NADHおよび/またはNADPHを補酵素として、アルデヒドおよびケトンに対応するアルコールに変換する反応を触媒します。これらの酵素は、重複しつつも異なる基質特異性を示します。この酵素は胆汁酸に高い親和性で結合し、3- α -ヒドロキシステロイド脱水素酵素活性は最小限です。この遺伝子は他の3つの遺伝子メンバーと高い配列相同性を有し、染色体10p15-p14にこれらの3つの遺伝子とともにクラスターを形成しています。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする3つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq提供、2011年12月]、触媒活性: アンドロステロン + NAD(P)(+) = 5- α -アンドロスタン-3,17-ジオン + NAD(P)H、触媒活性: トランス-1,2-ジヒドロベンゼン-1,2-ジオール + NADP(+) = カテコール + NADPH、酵素調節: ヘキサストールのIC(50)が2.8 μ M、1,10-フェナントロリンのIC(50)が2100 μ M、1,7-フェナントロリンのIC(50)が1500 μ M、フルフェナム酸のIC(50)が0.9 μ M、インドメタシンのIC(50)が75 μ M、イブプロフェンのIC(50)が6.9 μ M、リトコール酸のIC(50)は0.07 μ M、ウルソデオキシコール酸のIC(50)は0.08 μ M、ケノデオキシコール酸のIC(50)は0.13 μ Mです。機能: 5- α /5- β ステロイド還元酵素と協調して、ステロイドホルモンを3- α /5- α および3- α /5- β テトラヒドロステロイドに変換します。最も強力なアンドロゲンである5- α -ジヒドロテストステロン (5- α -DHT) を5- α -アンドロスタン-3- α ,17- β -ジオール (3- α -ジオール) に不活性化する触媒作用をします。高い胆汁結合能を有します。類似性: アルド/ケト還元酵素ファミリーに属します。、

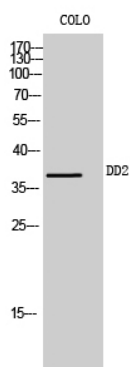
研究分野

ステロイドホルモンの生合成、シトクロム P450 による異物代謝

画像データ



AKR1C2抗体を用いたCOLO細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



DD2ポリクローナル抗体を用いたCOLO細胞のウェスタンブロット解析